

No. 1486

江戸前のハゼ

どこか外国の海岸を思わせるこの風景実は東京湾13号埋立て地にできた海上公園なのです。ここでハゼが釣れるとあって、太公望がわんさと押しかけました。まだ小ぶりながら子供にも釣れるとあつて大にぎわいです。

こちらは本格的に船仕立て。こちらの主役もサオの扱いもまだ危なっかしいチビっ子たち。ハゼは江戸前にかぎるとか、どうやら東京湾に江戸前のハゼがよみがえったようです。

みちのくのたび

— 福 島 —

大自然に抱かれるように、信夫の里・福島はありました。かって西行が行き、芭蕉が歩んだみちのく。

みちのくのしのぶもちずり たれゆえに みだれそめにし われならなくに

悲恋の伝説を秘めた文知摺観音。のんびりと飯坂温泉へと向う郊外電車、そこにも芭蕉の足跡はしるされていました。

医王寺に建つ芭蕉句碑

笈も大刀も 五月に飾れ 紙のぼり

峠道の石碑にさえいにしえ人の語らいや祈りが聞えてくるみちのくの旅、信夫山の山肌に彫られた岩谷観音の磨崖仏は何を祈ったのでしょうか。

食欲の秋をいろどる味覚があふれそうなくだもの王国・福島。

福島は梅・桃・桜・梨・すもも 花も実もあるおらがふるさと

そんなお国自慢がびったりです。

詩人が詩い、歌人が詠んだふるさとの山・吾妻小富士。山路をたどると、名も知れぬ草花がしのびよる秋の気配をそっと語りかけてくるようです。

深い霧の中にひっそりとこけしの里・土湯温泉はありました。木地師が手すさびに木を削って我が子に与えた人形がこけしのはじまりだといひます。みちのくの自然は旅人とかわす語らいを待ちわびているようでした。